

# りいぶる

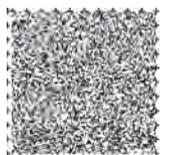


表紙デザイン作者：尾崎共さん（イラストレーター、和歌山県紀の川市在住）

今号の  
注目記事

りいぶる★アイ 男女共同 **子育て** 参画

- PAPAMO 和歌山のパパにもっと子育てを！！
- 海外の子育て事情を聞いてみました！
- 和歌山で育児を愉しむ父親たち





# 特集◆男女共同子育て参画◆

「イクメン」の言葉も社会にすっかり定着したように思われます。男性が育児など家庭生活により積極的に関わっていくことは、女性が働きやすい社会を実現するためにも欠かすことができません。しかし和歌山県では、男性の育児参加時間が全国で最下位であるなど、特に取組が必要な状況になっています。今回は海外の状況も取り上げながら、男性の家庭参画について考えてみましょう。

「女性活躍推進法」全面施行から1年がたちましたが、男性の家事・育児参加が進まず、それらの負担が女性に偏ることで、特に出産後の女性の活躍を阻んでいます。

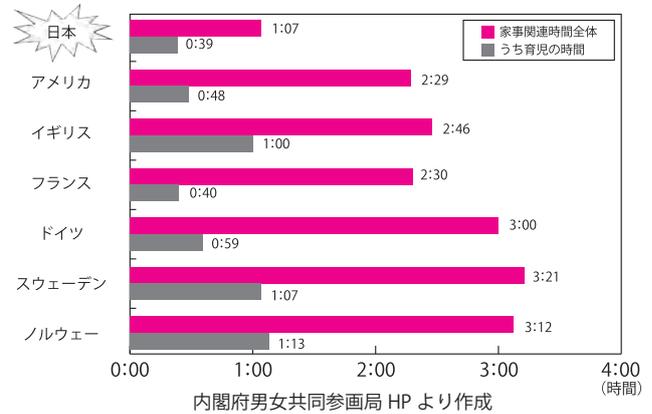
日本の男性の家事関連時間（※）を国際的な比較でみると、6歳未満の子どもを持つ夫の家事関連時間は1日当たり67分となっており、先進国で最低の水準にとどまっています（右図参照）。

日本の中でも、和歌山県は家事関連時間が短く、育児時間は1日当たり**23分**と全国最下位になっています。なお、全国で最も育児時間が長いのが秋田県の67分。全国平均が39分です。

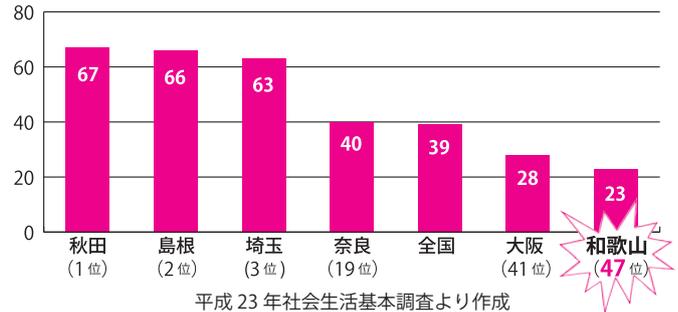
〔※家事関連時間＝家事、介護・看護、育児及び買い物〕



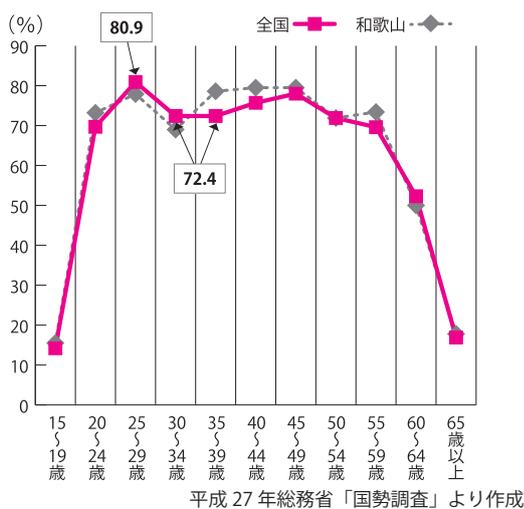
6歳未満の子どもを持つ夫の家事関連時間（1日当たり・国際比較）



6歳未満の子どもを持つ夫の育児時間（1日当たり・全国比較）（分）



女性の年齢階級別労働力率



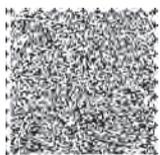
また、女性の労働力率を年代別にグラフにすると、結婚・出産期にあたる年代では低下し育児を終了する時期に再び上昇するという、いわゆるM字カーブを描くことが知られています。全国で見ると、働いている女性が多いたる25～29歳では労働力率が80.9%であるのに対し、30～39歳では72.4%に下がっています。

男性の家事・育児時間が長い家庭では、女性の就業継続割合も高くなっています。男性が積極的に育児に関わることで、M字カーブ解消につながるだけでなく、さらに子どもの健全な育成、女性の家事・育児負担軽減、男性自身のワーク・ライフ・バランスの実現にも広がってきます。男性の家事・育児参加は女性の活躍、ひいては男女共同参画社会の実現にも不可欠なのです。

職場と家庭で、男性も女性も活躍できる和歌山にしたい！



そんな思いから、りいぶるは「男性の育児参加」に焦点をあて、「和歌山のパパイクプロジェクト PAPAMO」の事業を実施しました！



# PAPAMO

## 和歌山のパパにもっと子育てを!!



パパが子育てに参加してくれるために、ママにできることは何だろう？  
 パパ自身はどんな風に関わっていったらいいのかな？  
 パパの育児参加の第一歩となるコツが満載の講座を、県内各地で開催しました。

### 【ママ対象啓発講座】（県内各地で 24 回開催）

### ママのためのパパイクセミナー

カラーセラピストの尾高りほさん、助産師の中西美好さん、整理収納アドバイザーの吉松麻由さんの中から各回一人ずつを講師にお招きし、パパを育児などに参加させるための夫婦間の円滑なコミュニケーションのコツを伝える「ママ対象啓発講座」。ここではそのひとつを紹介します♪

#### 夫はワタシの人生の味方！ 色彩心理 de コミュニケーション



尾高りほさん  
 (カラーセラピスト)

色彩心理カウンセリングをとおして、パパとママの思考の違いについて解説。ママは相手の気持ちを察して協力する傾向があるが、パパは具体的に言うとうと行動に移しやすいと、自身の夫とのやり取りを例に説明されました。

講師は、①自分の気持ちを「私は」を主語に「Iメッセージ」で伝える。②してほしいことをシンプルに説明する。③協力してもらったら感謝の言葉を伝えるという3つのアドバイスを示し、ぜひ実践してほしいと述べられました。



Before

After

#### ★参加された方の声より★

家事がたまっていたときに、勇気を出して夫に「洗濯物を干してほしい」と頼むと「いいよ」と言ってやってくれました。感謝の気持ちを伝えると喜んでいたので、きちんと気持ちを伝えることは大切ですね！

### 【パパ対象啓発講座】（県内各地で 4 回開催）

### 笑顔になれる！パパの育児応援講座



講師自身の子育て体験をもとに、参加者同士の交流をとおして男性育児のあり方を考える「パパ対象啓発講座」を開催！



アクト研究室代表の鳥淵朋子さんとお笑い芸人の池田のりひこさんを講師に迎えて、田辺市、和歌山市、有田市で開催し、パパが子育てに参加することで家族を幸せにする秘訣を語り合いました。

3人のお子さんのパパである池田さんは、自身の子育て体験を踏まえて「子育てあるある紙芝居」を披露、参加者の笑いや共感を誘いました。その内容に対して、鳥淵さんがママの視点とパパの視点をジェンダーの意識の違いからわかりやすく解説されました。

参加者同士のグループワークでは、育児に参加しているパパの実体験から「よかれと思って家事をしても、妻に怒られてどうしていいかわからない」などの不満や「家族の予定が分かるように共通のカレンダーを作ったら、家事や子育てに参加しやすくなった」などの成

功例が発表されました。

最後に鳥淵さんは、『『男性の育児参加』という言い方はするが、『女性の育児参加』とは言わない。ママと子どもは常にセットで考えられている。パパが育児に参加するためには、ママが育児に対して考えていることを共有していくことが大切。そして子育てを優先してしまいがちだが、夫婦としてお互い向き合い、二人で過ごす時間を積極的に作っていくことも大事』と結ばれました。



### 「産後が始まった!」著者 渡辺大地さん講座! 平成 29 年 1 月 22 日(日)

ママ・パパの産後サポート事業を展開する㈱アイナロハ代表取締役で、父親学級の講師を務めている渡辺さんをお招きしました。ママ・パパに分かれた参加者のグルーptークを交え、産後の夫婦の考え方のずれやパパの心構え、ワーク・ライフ・バランスなどについて話されました。

「夫による、産後のリアル妻レポート 産後が始まった!」  
 渡辺大地 (著) 青柳ちか (イラスト) KADOKAWA メディファクトリー





# 海外の子育て事情を聞いてみました！



国によって子育ての習慣は違います。ほかの国では、誰がどんなふうにか子育てに関わっているのでしょうか。今回は男女平等の先進国である北欧のノルウェーと、地域の結びつきが強いと言われているアジアのインドの子育て事情についてうかがってみました。



**坂本紀子さん** (日本語教師・ノルウェー在住 12年)

ノルウェー人の夫、息子(8歳)、娘(5歳)の4人家族



ノルウェー

夫婦は経済的・精神的にお互い自立していることがノルウェーでの一般的な考え方です。家事や育児も夫が妻を「手伝う」のではなく、率先して行うことが当たり前となっています。坂本さんの夫も早く帰宅すると夕食を作り、後片付けや子どもたちの世話をしてくれています。

ノルウェーでの平均的な1日の労働時間は昼休憩を含んだ8時から16時までの7.5時間。仕事が終わるとほとんどの人はまっすぐ家に帰り、家族と過ごしたり趣味をゆっくり楽しんだり、ゆとりの時間をもっています。

結婚や出産を機に労働時間を減らす女性はいますが、国が決めた育児休暇制度により、父親が10週間以上取得することを条件に、夫婦合計で56週間まで育児休暇を取得できます。2015年に父親になった男性の70%が、

10週間かそれ以上の育児休暇を取得しており、10週間未満を含めると、90%の男性が取得しています。

坂本さんは、日本でも育児休暇など働きやすい制度がもっと充実すれば、男女ともに活躍できるのではと考えています。「知人のノルウェー人女性からは、ノルウェーも昔から男女平等であったわけではなく、そのために闘ってきた多くの女性たちの努力の上に、今の社会があると聞きました。だからこそ、歴史を知ることは大切ですね。」と語られました。

ノルウェーの"子育て"安心情報  
親が子どもを保育園へ入園させようと希望した場合、自治体は必ず受け入れなければならないが、日本のような待機児童問題は無いよ！



インド

**ギリ・ガネーシュさん**

(ニューデリー出身・インド式ヨガ代表・和歌山在住 11年)

日本人の妻、息子(8歳)の3人家族



インドでは3世代家族が多く、都会では祖父母に子どもを預けて共働きをする人が多いです。経済的に余裕があればベビーシッターを雇う人もいます。ただ、地方ではいまだに「女性を働かせるのは恥」という考えがあります。それは、収入を得るための仕事に重労働が多いので女性の身体を守るという理由からです。

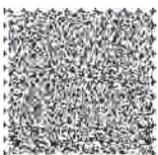
わたしは6人兄弟の末っ子で父親を早くに亡くしたため、母親と姉が経済面を支えていました。子どもを大事にする風土のインドは地域の結びつきが強く、近所の子どもたちはみんな遊び、親戚はもちろん地域全体で子どもを育てます。

日本での結婚生活では、家事や育児をお互い気づいた方ができるときにするという感じです。わたしは早起きなので毎朝チャイは必ず作ります。また料理も得意なので食事も時々作ります。

ギリさんは「日本は、何より長時間労働をなくし、家族の時間を取れるようもっとゆとりを持てる生活が必要だと思います。そんな願いをこめてわたしも親子自然体験イベントや家族の料理教室など、色々企画しています。また子育て中の女性も働きやすい環境になるように育児休暇の普及や職場に託児所を作るなど企業にも協力をお願いしたいです。」と話されました。

インドの"子育て"安心情報  
公共バスが通学時間帯だけ通学バスに変身。小学校から高校まで同じ敷地内で、兄弟や親戚との団結力が強く、お互いを支りあうためのいじめもほとんどない！

息子さんと一緒にスキー！



## ★和歌山で育児を愉しむ父親たち★ 父親の育児サークル **パパチカ**

2013年2月に「パパのチカラでやろうよ」と集まった父親たちで立ち上げたパパチカ。2014年に始めた「わかやまのぬりえ」プロジェクトでは、和歌山の名所を題材にした子ども用の塗り絵を作成し、昨年には第3弾として1万冊を発行、主に保育所や学校などに配布しています。また、親子で楽しめる巨大ぬりえイベントなども開催し、男性が育児を愉しめる活動を行っています。パパチカ副代表の額田康夫さんにお話を聞きました。

男性が育児に関わりにくい社会状況に、自分たちで何かできないかという思いから生まれたパパチカは、活動4年目を迎え、メンバーも25人にまで増えました。イベントにはメンバーの家族も参加し、父親の活動を応援する関係ができています。

活動をとおして感じるのは、実は育児に参加したいと考えている父親は多いが、方法ときっかけが分からないだけではないかということ。子どもと一緒にできる遊びやツールを知れば、男性はもっと主体的に育児を愉しめるのではないのでしょうか。



和歌山の魅力が  
いっぱいの巨大  
ぬりえイベントは  
大人気です！

第3弾も好評です。  
活動は気負わずに、  
“**普段着のお父さん**”  
で愉しむのが秘訣で  
すね。

パパチカ副代表  
額田康夫さん



育児は、自己犠牲のうえに成り立つものではないと思います。父親も母親も、まずは「愉しさ」に目を向けてほしい。パパチカも「わかやまのぬりえ」を中心に、そんな愉しさを発信できる活動をこれからも続けていきたいです。

☆活動についてはブログ「パパチカ」、フェイスブック「Papachika-in Wakayama」で検索してください。「わかやまのぬりえ」は、ブログからダウンロードできます。

## これからどんな取り組みが必要なんだろう？

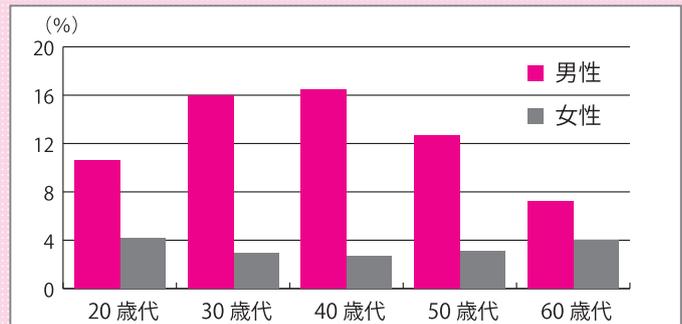


今回の特集をとおして、子育て中の夫婦がお互いを尊重しながら日々の暮らしの楽しさや責任を共有していくためには、夫婦間のコミュニケーションを充実させ、感じていることや相手にしてほしいことを率直に伝え合い、それをきっかけとして男性がより家庭生活に参画していくことが必要だと考えました。そのためには、家族で一緒に過ごす十分な時間的ゆとりが必要です。

### 子育て参画 Point!!

- \*夫婦間で会話を増やす
- \*家事・育児はできる人が、  
できることから
- \*男性の育児休業取得促進
- \*長時間労働の見直し

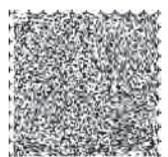
週労働時間 60 時間以上の就業者の割合



平成 27 年総務省「労働力調査」

しかしながら、夫婦で子育てを分担し、家族で過ごす時間が最も必要だと思われる30代、40代の男性が、実は最も長時間労働をしています。(上の図参照)

昨今ようやく一部の企業が労働制度を見直すなど、長時間労働に対して規制を厳しくする動きが見え始めました。長時間労働を含む男性中心の労働慣行が見直されることが、男性の家事と子育てへの参画につながります。これにより女性が家庭以外で活躍する場が増えるだけでなく、男性にも仕事以外での新しい活躍の場ができるのではないのでしょうか。





## 講座レポート

男女共同参画の様々な課題をテーマに、毎回、ゲストスピーカーを迎えて行う「語り合い広場」事業。今年は、「男女共同参画の視点からの防災」「女性の生き方：離婚」をテーマに開催しました。

### 女性視点の防災講座

～熊本の被災現場から考える～

講師：市場美佐子さん

(防災士、3W ウィメンズワッチタワー代表)

11月12日(土) “りいぶる” 会議室 A



この講座は女性視点で震災への対応を考えることを目的に実施しました。熊本県出身の講師は、親戚が被災し安否確認に苦労したことから、災害時にどのような連絡手段を使うか普段から考えておく必要性を提案。また、現地でのボランティア経験から、ひとり暮らしの高齢者の支援の重要性を痛感されたそうです。

グループワークでは、72時間後に地震が起きることを想定し、それまでに何を備えるかを話し合いました。妊産婦、病気や障害のある人、高齢者など「要援護者」の避難方法を考えたグループもありました。講師は、家族で防災会議を定期的開催し、避難場所や非常時持ち出し袋に入れるものを話し合うことが重要と付け加えられました。

最後に、ボイスカウトの標語である「備えよ常に」を紹介され、災害への心構えと避難のための体力づくりをし、防災知識を持ってほしいと結ばれました。



### 私らしく生きていく

～女性のための離婚講座～

講師：植田香代子さん

(ファイナンシャルプランナー)

2月23日(木) “りいぶる” 会議室 A



この講座は、離婚すべきか悩む女性が離婚に関する情報や知識を得ることを目的に実施。講師は、親族、友人、弁護士や各相談機関に相談し情報を集めて、最後は自分が納得できる結果を出し、結果を出した自分を誇りに思っほしいと話されました。離婚後の生活について、和歌山県の制度を基に児童扶養手当や教育、就労のための無利子・低利子での貸付、資格取得の支援や医療費助成などを解説。またシングルマザーの家計を例示し、経済的に苦しい世帯が多い現状にふれ、住居費を抑えたり養育費を確保したりすることも必要だと話されました。子どもがいる場合には、進学が就職か子どもに意思確認をしながら、進学希望であれば奨学金の情報を得ることなどを薦められました。

講師は、参加者からの質問にも丁寧に答えられ、結論を出すまでに悩むのは当然で、時間が経っても自分が決めた結果で一步踏み出せば景色は違ってみえるとメッセージを伝えられました。

#### ★離婚を選択したあなたへ★

がんばりすぎないでいい。同じ立場、わかりあえる仲間と情報共有・グチの吐き出しで気持ちを楽に！

大学×“りいぶる”  
×  
男女共同参画?!

和歌山大学経済学部の2・3年生を対象に、行政職員を講師に迎え行う講座「現代社会実践論-キャリアと公務-」(指導教員:本庄麻美子助教/岩田英朗准教授)に、“りいぶる”が全面協力。10月19日、山中浩子所長が県の業務について講義したのち、学生たちにミッションを提示。8チームに分かれて課題解決に向けた企画提案を作成し、1月25日に最終プレゼンテーションを行ないました。

学生が取り組むべく提示したミッションは、「**女性が活躍する元気な和歌山にしたい!!**」。

チームそれぞれが行政機関への調査や中高生、一般家庭へのアンケートなどフィールドワークをとおして現状を分析し、女性が働きやすい和歌山にするための企画を考え発表しました。

次世代への教育や家事・育児と仕事の両立のための取組、働きやすい企業を増やす、高齢女性が活躍する企画など、大学生ならではの斬新なアイデアも。

職業観の形成だけでなく、社会の現状を知り、男女共同参画の理解を深める機会にもなりました。

卒業後もぜひ和歌山で活躍してほしいですね。

#### ★発表された企画提案★

- ・中高生向け男女共同参画視点のキャリア教育
- ・過疎地域の高齢女性の活躍の場(子どもと民泊など)
- ・和歌山県版イクボスアワード(地元企業を表彰)
- ・テレワーク推進のためのトライアル・補助金制度
- ・イクメン推進のためのアプリ開発・運用
- ・高校生向け育休・育児参加促進のキャリア教育
- ・男女共同参画推進事業者増加計画(シンボルマーク)
- ・イクメン(男性の家事育児)検定

がんばりました!



## 青少年・男女共同参画課インフォメーション

◆男女共同参画推進事業者を登録しました。  
(平成 29 年 1 月 31 日現在登録数：114 事業者)

県では、男女がともに安心して生き生きと働くことができる職場・環境づくりに取り組んでいる事業者の皆さんを登録し、その活動を応援するため、ホームページなどで広くその取組を紹介します。

登録申請は随時受け付けています！！

事業者の皆さんからの応募をお待ちしています。

詳しくは [和歌山県 男女共同参画推進事業者](#) [検索](#)

事業者名 (登録番号)	業種 (所在地)	取組内容
オカ株式会社 (男女第 112 号)	日用品企画・製造・販売業 (海南市)	・短時間労働者等から正規労働者に登用する制度を整備 等
社会福祉法人皆楽園 (男女第 113 号)	社会福祉・介護事業 (岩出市)	・「全管理職に占める女性の割合を 50%以上にする」という目標を定めるとともに、管理職の業務を遂行するために必要な知識やスキルを習得のため、外部研修受講の機会を提供 等
株式会社堀口産業 (男女第 114 号)	電池製造業 (紀の川市)	・資格取得等に対する助成制度を定め、受験料を会社で負担するとともに、職能給に反映することで従業員のスキルアップを支援 等
株式会社関組 (男女第 115 号)	総合建設業 (和歌山市)	・時間単位や半日での年休取得を推進し、介護や子育てと仕事の両立を支援 等
医療法人富田会 (男女第 116 号)	医療 (岩出市)	・看護職員等が利用可能な専用託児所を整備 等
株式会社サンコー (男女第 117 号)	生活関連用品企画製造卸業 (海南市)	・職域拡大を進め、営業職に女性を積極的に登用 等
有限会社和西建設 (男女第 118 号)	建設業 (和歌山市)	・男性従業員の育児休業取得を推進するとともに、5 日以内の育児休業については有給とし、育児休業を取得しやすい職場環境づくり 等
杉谷産業株式会社 (男女第 119 号)	建設業 (みなべ町)	・資格取得のための講習費用や受験料を会社が負担し、従業員のスキルアップを支援 等
児玉建設 (男女第 120 号)	建設業 (日高川町)	・法の規定を超える、子の看護休暇制度(子 1 人の場合 10 日、2 人以上の場合 20 日まで取得できる)を整備 等

## “りいぶる” 図書室

☆スタッフおすすめ図書☆

様々なジャンルの新着本が入りましたよ～！

### フランスはどう少子化を克服したか



著者 高崎順子  
出版社 新潮新書

「子どもを産める国、育てられる国」といわれるフランス。その国で子育て中の著者による最新育児事情レポート。

2 週間で男性に父親としての自覚をもたせる「父親産休」、妊娠出産への手厚い医療、3 歳からの「保育学校」など、保護者の負担軽減と子どもの健やかな発育のための様々な施策は、日本の少子化問題の打開にヒントを与えてくれる。

保育関係者はもちろん、子育て中の保護者にもおすすめの一冊。

### 農ガール、農ライフ



著者 かきやみう  
出版社 祥伝社

仕事も彼氏も住むところも失った、貧困転落間際の 30 代单身女性が、最後の砦として農業に奮闘する小説。

田舎や農業に携わる人たちの「女性が農業をするには農家の嫁になるのが一番！」という考え方と、主人公の一人で自立して農業をしようとする思いの対比が現代社会の女性の心を表している。

生き方に迷い自分の力で突き進む勇気が欲しいときに、ぜひ読んでほしい。

### 昼、介護職。夜、デリヘル嬢。



著者 家田荘子  
出版社 ブックマン社

30 年にわたって風俗の世界取材してきた著者が、風俗と介護職のダブルワークをする女性たちを取り上げたノンフィクション。介護の現場で苦悩する「高齢者の性」の現状も明らかにしている。そこには、女性の地位の低さと、女性を性的な対象として扱ってきた社会の影響も読み取れる。

「介護の仕事が好き」という献身性に社会が甘えているのではないが、介護職の地位向上を強く願わずにはいられない一冊。



自分を大切にするために…。 “りいぶる” 相談室  
**相談受付専用ダイヤル 073(435)5246**

相談料は無料。専門の相談員がお話をおうかがいします。  
 秘密厳守です。ナンバーディスプレイは使用していません。

**総合相談**

家庭や職場のこと、生き方への不安など、様々な悩みや相談に女性相談員が応じます。

**電話相談**

- ☎(水)木(金)土☎ 9:00～20:30 (受付は20:00まで)
- 〇〇〇〇〇〇〇 9:00～17:00 (受付は16:30まで)

**面接相談** (予約制・女性のみ)

- ☎(水)木(金)土☎ 9:00～17:30 (受付は16:30まで)
- 〇〇〇〇〇〇〇 9:00～16:00 (受付は15:00まで)

**女性のためのカウンセリング**

女性が抱えるこころの問題に女性カウンセラーが応じます。

**面接相談または電話相談**

- 〇〇〇(金)〇〇 13:00～15:40  
 ※第1～第3金曜日  
 予約制、各日3人まで。  
 相談時間は1人40分。

**女性のための法律相談**

夫婦、財産相続、金銭問題等、女性にとって身近な法律上の問題に女性弁護士が応じます。

**面接相談のみ**

- 月4回 13:00～14:50  
 ※日程は“りいぶる”までご確認ください。  
 予約制、各日3人まで。  
 相談時間は1人30分。

**男性のための電話相談**

職場のストレスをはじめ、夫婦・家族・人間関係などの様々な問題に男性相談員が応じます。

- ☎(水)〇〇〇〇〇 16:00～20:00 (受付は19:30まで)  
 ※毎月第2水曜日  
 予約優先(匿名可)  
 相談時間は1人40分程度

☆NEW! 表紙デザインについて☆

作者の尾崎共さんは、イラストレーションのほかに、フェイス&ボディペイント、妊娠したお腹に絵を描くマタニティペイントや、シールを使って様々な絵を作るシールアート、子ども向けワークショップ活動もしています。センターの愛称“りいぶる”はフランス語で「自由な(libre)」の意味。表紙は、まるで、自分らしい自由な未来に向かって飛び立つかのように、鳥を追う子どもが描かれています。機関誌「りいぶる」の新しい顔を、よろしくお願ひします♪



◆発行 和歌山県男女共同参画センター

“りいぶる”

〒640-8319 和歌山市手平2丁目1-2  
 県民交流プラザ和歌山ビッグ愛9F

T E L (073) 435-5245  
 F A X (073) 435-5247  
 《メールアドレス》 libre@sirius.ocn.ne.jp  
 開館時間 火曜～土曜：午前9時～午後9時  
 日曜：午前9時～午後5時30分  
 休館日 毎週月曜・国民の休日(祝日)  
 年末年始(12月29日～1月3日)

りいぶる 検索

フェイスブックも更新中♪

—企画・編集 特定非営利活動法人 和歌山eかんばにい—

性暴力について  
 相談したい…

**性暴力救援センター和歌山**  
 マイン  
**わかやま mine**  
 (和歌山県立医科大学附属病院内)

◆相談受付専用ダイヤル

オーエンキューキュー  
**073-444-0099**

- 相談・医療 毎日/9:00～21:30
- 緊急医療 毎日/9:00～22:00

こころとからだの回復のために女性支援員が細やかな支援を行います。  
 ひとりで悩まずに相談してください。

お知らせ♪



**男女共同参画  
 特別公開セミナー開催(予定)**

浜矩子さんをお迎えし、現在の経済社会をジェンダーの視点から読み解きます。

日時：7月29日(土) 13:30～15:00  
 会場：和歌山ビッグ愛大ホール  
 講師：浜矩子さん

〔同志社大学大学院  
 ビジネス研究科教授〕



詳細が決まり次第、県民の友、“りいぶる”HP・フェイスブック等でお知らせします。

**お楽しみに!**